



基本理念
 私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
 独立行政法人 国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

病院を発展させるために



NHO高知病院 院長
大串 文隆

富士山が世界遺産に登録されたニュースが流れ、地元をはじめ、日本中が沸き立っています。海外から日本に帰国する際、富士山をみて日本に帰ってきたと実感する人が多いといわれていますし、私自身も米国留学から帰ってきたとき富士山を見て日本を強く感じたのを覚えています。大学時代クラブ活動で南アルプスの北岳に登ったことがあります。休憩でザックをおろした時、目の前に現れた雄大な富士山が今でも目に焼き付いています。歌にもあるように富士は日本一の山だと、その時パーティのみんなと話したことでした。

世界遺産の中にもいろいろな種類がありますが、先日盛岡で開催された第13回日本医療マネジメント学会の特別講演で、毛越寺執事長の藤里明久氏による世界遺産に登録されている平泉の文化遺産についての講演を聞く機会がありました。その中で登録された世界遺産を有形、無形を問わず後世に伝えていくことが重要であることを語っておられました。富士山にしても、世界遺産登録に伴い、登山者の増加、観光地開発による環境破壊が危惧されています。世界遺産に限らず、文化や遺跡を維持し、かつ発展させ継承していくことは、時代時代の人に課せられた課題と考えます。

さて、私たちの高知病院も内容は異なりますが、次の世代に引き継いでいくという点では同じように思います。国立病院時代に建設された立派な建物も13年の歳月で当然ほころびも出てきていますが、病院の医療の質は確実に進歩してきています。この進歩した病院の医療の質を継続的に発展させていくためには、旧態

依然としたやり方では乗り越えることはできません。医療の現場において、診断技術や治療方法は、猛烈な速さで進歩しています。高度の機能を持つ医療機器の導入は避けて通れませんが、そのためには機器を購入できる経済的基盤の確立は重要で、職員の皆様も十分理解してくれていると思います。

また、機器整備も大切ですが、それ以上に重要なことは病院職員が時間をかけて獲得した知識や技術を引き継ぎ、さらに発展させる能力を持った優秀な人材を確保することです。そのためには、いい人材が高知病院に集まってくるような病院づくりをすることが、私たちに与えられた重要な課題です。すなわち、医療水準を上げ、教育を充実させ、病院を活性化することに加えて、働き甲斐のある職場にすることが重要です。さらに、チーム医療の重要性が指摘されている現在、職種の壁を越え、病院職員が心を一つにして、目標に向かっていく病院であることも必要と思います。

この意味から毎年実施している高知病院健康フェスタはまさに、病院職員が協力して実施する有意義なイベントと言えます。今年も6月1日に開催しましたが、200名を超える職員や看護学生がボランティアとして参加し、多くの来場者の皆様にも病院に親近感を持っていただけたことと思います。この開催にあたっては、来場者が興味をもつような企画を考えてくれた関係の皆様本当に心より感謝いたします。これからも、病院は様々な問題に直面しますが、協力し知恵を出し合って解決し、継続して病院を発展させていきましょう。

新任職員紹介



泌尿器科 亀井麻依子

7月1日より泌尿器科に赴任して参りました亀井麻依子（かめいまいこ）と申します。

高知県高知市出身で、平成20年に高知大学を卒業し、高知大学医学部付属病院で2年間の初期臨床研修を修了後、同院泌尿器科学教室に入局しました。

高知大学で約3年間の泌尿器科勤務を経験し、当院への赴任となり現在6年目です。

以前、学芸高校に通っておりましたので、再び朝倉に通勤となり懐かしくもありますが、十数年前とは異なり、この辺りも道が新しくきれいになっていたり、新しいお店ができていたり町並みも変化していて、時の流れを感じています。

当院では透析加療など、大学では経験できなかった様々な新しい分野を勉強できるよい機会であり、臨床医として成長できればと思っています。

医師としてはまだまだ未熟であり、皆様大変ご迷惑をおかけするとは思いますが、泌尿器科医として更なる経験を積み、頑張っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

健康フェスタ2013



管理課長 大久保直矢

平成25年6月1日に健康フェスタ2013を開催し、地域の方々約500人にご来場いただきました。第5回目となる今回のテーマは「始めよう！地域みんなで健康づくり」です。高知病院が地域の皆様の健康を支援し、地域に信頼される病院でありたいという思いを表したものです。

企画内容は、健康相談、体験コーナー、キッズコーナー、展示コーナー、市民公開講座などで、楽しみながら健康に貢献できるものとなりました。

体験コーナーは各職種の特徴を活かしたもので、薬剤科の「お菓子で調剤」では子供たちが列を作り調剤体験を楽しんでいました。検査科による肺年齢、血管年齢、骨密度の測定コーナー、リハビリテーション科による認知機能検査やリハビリ体験コーナー、助産師によるベビーマッサージとマタニティヨガのコーナー、看護学生によるアロママッサージのコーナー等を設置しました。これらの体験コーナーに参加いただいた方々に大変喜んでいただくことができました。

また、これらの各ブースを回ることアイスクリ

ンやフランクフルトの景品がもらえるスタンプラリーを実施し、大変好評でした。

中・高校生対象の手術室体験コーナーでは、模擬手術、結紮、腹腔鏡など手術器具を用いての体験をしました。希望者多数となり、全員に体験していただけなかったことは残念でしたが、参加した生徒さん達からは、将来医師や医療従事者を目指したいとの意見をいただきました。

午後からの市民公開講座では、「子どもとつながる〇〇科」をテーマに耳鼻咽喉科、皮膚科、呼吸器外科、外科、婦人科、小児科の各医師による講演及び重症心身障害病棟の患者さんがゲスト参加しての朗読を行いました。

その他、外部の方々にもご協力いただき、オープニングでは、杉の子第2幼稚園児による歌とダンス、箏・尺八・キーボードのユニット「こんぺいとう」による演奏を披露していただきました。屋外では、地元JAによる餅つき、野菜等の販売や高知大学教育学部附属特別支援学校による手作り品等の販売コーナーや消防車・救急車の展示コーナー、献血コーナー

を設置しました。エンディングでは朝倉中学校吹奏楽部による演奏に来場者が聴き入っていました。

参加者の皆さまからは、「来年も子供と一緒に来たい」、「体脂肪などの検査ができて良かった」などの感想をいただきました。

今回、準備のためのスタートが例年より1ヶ月以上遅れてしまい、運営上十分とは言えない点もありました。しかし、200名を超える職員がボランティアとして参加し、一丸となって取り組み、大きな力を発揮できたことで病院の底力を感じられました。

地域の方々と健康や医療について考える良い機会になりました。今後も地域に選ばれる病院になるため、地域の皆様との絆が深まるように取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、健康フェスタの開催にご協力いただいた多くの皆さまに感謝申し上げます。



リニアック更新について

診療放射線技師 菅谷 友一



放射線は手術、抗がん剤とともにがん治療の中で重要な役割を果たしています。放射線治療は手術と同じく、がんとその周辺のみを治療する局所療法です。手術と異なるところは、臓器を摘出する必要がなく臓器をもとのまま温存することができ、治療の前と同じような生活をするのが可能な治療手段であることです。

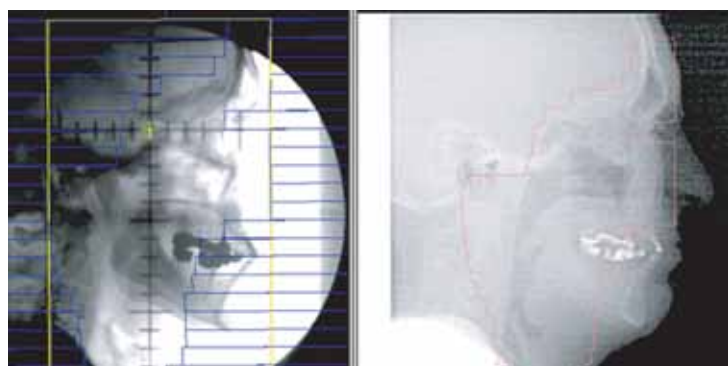
当院においては平成12年より、放射線治療装置を設置し、年間約150名程度の患者さんに放射線による治療を行ってまいりました。

このたび機器の老朽化にともない機器の更新を行いました。これにより、より精度が向上すると同時に、装置による制約が少なくなり、これまで以上に高度な放射線治療を行うことができます。

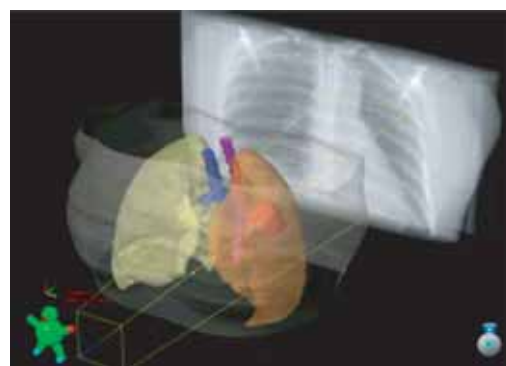
現在は機械等の設置も終わり、稼働に向けて正常に放射線治療を行うための調整作業を行っており、近々稼働予定です。



放射線治療装置 Clinac iX



治療計画例



電子カルテの導入

—ますますの滑り出しです—

副院長 小倉 英郎（医療情報部）



当院では、昨年10月26日のキックオフミーティングを皮切りに、鋭意、電子カルテの導入に向けて、着々と準備を進めてきました。4月29日9時より病棟部門が、30日8時より外来部門が本格稼働となりました。当初は入力負荷の増加に伴い、患者さんの待ち時間が、長くなりました。これは電子カルテ導入の医療施設ではある程度やむを得ないことですが、導入2ヶ月が過ぎ、ほぼ解消されつつあります。これも職員全員の一致団結の成果と思います

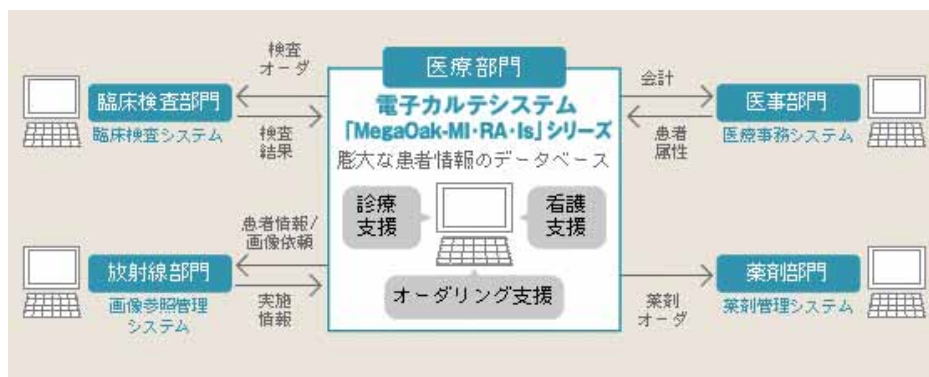
思い起こせば、当院は2000年に国立高知病院と国立療養所東高知病院が統合し、新病院として発足しました。これを期にオーダーリングシステムを導入しました。皆さんは何故電子カルテでなかったのかと思うかもしれませんが、それには3つの理由がありました。第1は当時の電子カルテはまだ未熟でした。また、ハードのキャパの問題がありました。当時はメガ、現在はギガの時代です。10年でITがここまで進化するとは誰も予測できなかったと思いますが、データの蓄積により、PCの動きが遅くなることは容易に想定できました。第2は職員の入力負荷の問題です。まず、オーダーリングを使いこなした上での電子カルテ導入が適切と考えました。3番目は両病院の統合という一大事業にいきなり電子カルテ導入をぶつけることはあまりにも無謀でした。

2年間という準備期間の後のオーダーリング導入でしたが、2000年10月の開院時初日は予想外の大混乱でした。これをオーダーリング導入のせいとする向きもありますが、外来診療室のスタッフは最初の1～2時間は開店休業状態でした。医事での

受付の問題（医事システムの習熟不足）とカルテ出し（東高知のカルテの多くはダンボールに入っていた）の問題だった様です。2007年も電子カルテを導入せず、オーダーリングのバージョンアップのみで我慢しました。従って、今回の電子カルテ導入は、当院としては、正に満を持してのものだったのです。

確かに電子カルテでは入力負荷の増大は避けて通れない課題です。また、現行の電子カルテにはリーズナブルでない展開がありますが、そこは慣れでより無駄の少ない操作法を身につけて頂きたいと思います。外来診療では患者さんに早く帰ってもらうため、記事の修正、病名入力、次回の検査入力などを後で行うことが多いと思います。具体的には、確定を随時していき、最後に登録し、感覚的に抵抗があるかもしれませんが、診療取消をクリックすると警告が少ない操作法となり、入力時間が短縮します。外来では医学管理料の画面を通らねばなりません、要はこれを1回限りにするということです。私自身もそうですが、まだまだ、システムを使いこなせていないと思います。一方、電子カルテには紙ベースの従来のカルテでは質的に不可能な活用方法があります。この点に関しては殆ど研修ができておりませんが、皆さんで操作法の工夫に前向きに取り組んでいただき、診療の質の向上や臨床研究に活用して頂くとありがたいと思います。

医療情報部会は、これで一区切りとはなりますが、今後も組織を縮小して、活動はつづけます。職員皆さんのご意見をくみ上げる仕組みは残していきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



「つくしまつり」を開催しました



療育指導室長 中島 由博



今年も5月25日（土）に、重症心身障害3ヶ病棟（通称つくし病棟）で今年度上半期最大の行事である「つくしまつり」を開催しました。今年のテーマは利用者さんの声を纏めて「ありがとう・みんなで・ワイワイやろう」でした。

利用者さん代表の言葉や親の会の会長さんからのあいさつで始まり、会場は前半に食堂や喫茶店、そして焼き物やアイス、またアロマやファンシー等々の店が並び、隣接の養護学校からの作品展示販売や親の会バザー等盛りだくさんの店が並んで、各病棟の利用者さんと家族、そして職員OB等で賑わい、久しぶりの再会を楽しんでおられました。

また、後半は大串院長の挨拶の後、舞台によさこいおどりの「てんてこまい」や「きらり」のみなさんに出演して頂き、会場狭しと舞い踊りを披露して頂きました。会場からは、割れんばかりの拍手とアンコールの声が湧き起こり、舞台と会場がひとつに

なっていて一段と会場の熱気が盛り上がりました。今回は午後から3時間あまりの時間でしたが、天候も曇りで初夏の時期には絶好の日和で、400人を超える人出があり、会場の療育訓練室や周辺の庭先には買い物や食事、そして楽しい会話に花が咲いていました。

今回の「つくしまつり」にも例年通り、「高知病院附属看護学校」や「龍馬看護ふくし専門学校」からたくさんのボランティアの学生さんが来てくださいました。また「つくし病棟親の会」や「若草養護学校国立高知病院分校」の皆さんにもたくさんの参加と御協力を頂きました。ありがとうございました。



がん患者カウンセリングが うけられます

緩和ケア認定看護師 副看護部長 佐々木牧子



「がん患者カウンセリング」とは、がんと診断された患者さんに対して、患者さんの心理状態に十分配慮された環境で、診断結果及び治療方法等について患者さんが十分に理解し、納得した上で治療方針を選択できるように説明及び相談を行うことをいいます。カウンセリングには、専門の研修を受けた医師と看護師が主治医からの説明に同席し、患者さんの疑問や不安をサポートします。カウンセリング介入後は、継続して患者さんを支援致します。例えば、

＊がんと診断され治療方針を提示されたがどのように決めたらよいのか迷っている

＊治療方針や今後のことについて主治医に聞きたいことがあるが聞きにくい、または何を聞いたらいよいかわからない

＊今後について十分に時間をとって専門家を含めて話し合いたい

など、さまざまな場面に対応できます。カウンセリングは保険診療で受けられ、カウンセリングを何度受けても1人の患者さんにつき1回限りの算定です。

自己負担額の目安は、以下のようになっています。

＊3割負担の方：5,000円 × 3割 ＝ 1,500円

＊1割負担の方：5,000円 × 1割 ＝ 500円

がん患者カウンセリングをご希望の方は、主治医、担当看護師、がん相談窓口へご相談ください。

平成25年7月現在のカウンセリング同席者一覧（専門研修修了者）

医師	病院長	大串 文隆
	臨床研究部長	篠原 勉
	呼吸器センター長	畠山 暢生
	呼吸器科医長	岡野 義夫
	呼吸器科医長	町田 久典
	外科医長	福山 充俊
	消化器科医師	板垣 達三
看護師	消化器科医師	三井 康裕
	がん性疼痛看護認定看護師	長浦 英世
	皮膚・排泄ケア認定看護師	竹内 真弓
	緩和ケア認定看護師	佐々木牧子
	がん化学療法看護認定看護師	高須賀ゆかり

第22回 日本脊椎 インストゥルメンテーション 学会の開催に向けて

統括診療部長 篠原 一仁



この度、第22回日本脊椎インストゥルメンテーション学会を平成25年10月24日より10月26日にかけて、ザクラウンパレス新阪急高知ホテルにおいて開催させていただくことになりました。四国では初めての開催となります。本学会は会員数も750名を超え、整形外科分野でも有数の規模の学会となっています。

脊椎インストゥルメンテーション手術とは、人工関節手術と同様に、脊椎疾患に対して種々の医療用具を用いて脊椎の変形や脊椎のすべりを矯正し、脊椎の固定を行う手術手技の1つです。従来は脊椎変形や脊椎外傷に主として用いられてきましたが、最近では早期離床や確実な骨癒合の確立を目的として、脊椎・脊髄腫瘍、脊椎変性疾患及び脊椎感染性疾患など幅広く応用されるようになり、脊椎・脊髄外科の手術治療法の1つとしてなくてはならない存在となっています。

今回の学会では256題の演題応募をいただき、学会史上最多となりました。諸外国の医師をはじめ、全国より約700名以上の脊椎外科医が参加する見込みであります。本学会の開催と運営に向けて皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

**Spine Week
Japan
Kochi 2013**

Japanese Spinal Instrumentation Society

第22回 日本脊椎 インストゥル メンテーション学会

テーマ「未来への敢為」

Kumu Gloward Lecture
「腰椎変性すべり症に対する前方固定術」
中野 進之介 先生（国立病院機構 岡山医療センター）

合同シンポジウム
「各国における高齢者に対する脊椎インストゥルメンテーション手術の現状と課題」

主題1：高齢者に対する手術適応と限界
主題2：隣接椎間障害を含む術後合併症対策
主題3：インストゥルメンテーション手術の新しい試みと工夫

2013年
会期 10/24(木)・25(金)・26(土)

会場 ザクラウンパレス新阪急高知
〒780-8561 高知県高知市本町4-2-50
TEL 088-873-1111 / FAX 088-873-1145

会長 篠原 一仁（国立病院機構 高知病院 統括診療部長）

合同開催
第47回 日本側弯症学会
会期 2013年10月23日(水)・24日(木)
会場 ザクラウンパレス新阪急高知
〒780-8561 高知県高知市本町4-2-50
TEL 088-873-1111
FAX 088-873-1145
会長 橋山 和正（弘前記念病院 院長）
【主催事務局】 弘前大学医学部 整形外科学教室
〒036-0562 青森県弘前市在野町5
TEL 0172-39-5083
FAX 0172-39-3826

演題募集期間 ▶ 2013年4月17日(水)～5月29日(水) <http://jsis22.umin.jp/>

主催事務局 独立行政法人国立病院機構 高知病院
〒780-8077 高知市制置西町1-2-25 TEL: 088-844-3111 FAX: 088-843-6385

運営事務局 株式会社サンブラネット
〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-10 TEL: 03-5940-2614 FAX: 03-3942-6396 E-mail: jsis22@sunbra-mcv.com



コメディカル新採用職員研修会に参加して



診療放射線技師 新開 千真

5月30日から6月1日にNHO岡山医療センターで開催された平成25年度新採用職員研修会に参加させていただきました。

この研修会には薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、心理療法士、事務職、児童指導員、保育士、医療社会事業専門員、診療情報管理士が一堂に会して行われました。

5月30日には国立病院機構の現状や規程についての講義とチーム医療についての講義を受け、国立病院機構の職員としての心構えを学びました。

31日には接遇やマナーの講義と、各職種に分かれてクレーム対応の模擬訓練を行いました。この模擬

訓練を通して、今まで自分の思い込みで行動していた部分があったと気付くことができました。

6月1日には各職種に分かれて講義を受けました。私たち診療放射線技師は放射線科の業務や放射線科の業務におけるリスクマネジメントなどの講義を受けました。リスクに気付き、それにしっかりと対処できるように心がけていきたいと思いました。

今回の研修で学んだことを活かし、これからの職務に励みたいと思います。



コメディカル新採用職員研修会に参加して



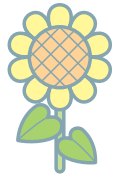
臨床検査技師 安野 智哉

5月30日（木）～6月1日（土）の3日間、NH O岡山医療センターにおいて、平成25年度中国四国ブロック新採用職員研修会が開かれました。研修対象者が医療職（二）・事務職・福祉及び診療情報管理等、総勢216名とかなりの人数の方がいて驚きました。そのうち臨床検査技師として採用された者は24名でした。

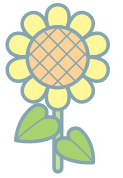
研修内容は、1日目は国立病院機構についての規程・チーム医療についてのあり方などの講義、2日目は接遇・基本マナーを講師の方を交えての実習、3日目は各職種に分かれての講義と、どれも内容の

濃い研修会となりました。

その中でも、特に印象的だったのが各職種に分かれての講義でした。技師長をはじめ、各分野の先輩技師の熱意が伝わる講義でとても勉強になりました。また、他の施設の同期の方たちとのコミュニケーションをとることができ、楽しかったのと同時にいい刺激になりました。これからもこういう場がもっとあったらいいなと思いました。とても有意義な研修会となりました。



コメディカル新採用職員研修会に参加して



理学療法士 津田 泰路

本年4月より、理学療法士として勤務させていただいている津田泰路です。

5月30日から6月1日の3日間、NHO岡山医療センターで開催された新採用職員研修に参加させていただきました。

この研修は、中国四国ブロック管内の病院で働く新採用職員を対象としたもので、国立病院機構の使命・理念、接遇マナー、チーム医療についてなど多くのことを学ぶことができました。

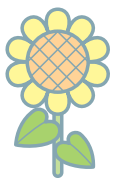
特に印象に残っている講義は、チーム医療についてです。チーム医療を行うことによって、職種間で効率的な連携ができ、医療の質の向上や、業務の負担軽減がもたらされるというものでした。チーム医

療を推進するために必要なことの1つに、他の職種を理解し、尊重することが重要であると学びました。互いに理解・尊重することで、適切な情報交換・共有を行え、平等な立場で議論することができます。その結果、無駄がなく、適切な医療を患者さんに提供できます。そのため、お互いの職種の理解は非常に重要だと再認識できました。

理学療法士は、カンファレンスなどの情報提供の場を通して、医師、看護師など多くの職種と関わりを持ちます。私は、まだ1年目であり、チームの中では未熟です。なので、1日でも早くチームに貢献できるよう、研修で学んだことを忘れず、日々研鑽を積んでいきたいです。



新採用事務職員研修に参加して



契約係 森 有平

5月29日から31日までの3日間、NHO岡山医療センターで開催された平成25年度新採用職員研修に参加させていただきました。

この研修は、中国四国ブロック管内の病院に新たに採用されたコメディカル職員と事務職員を対象としたもので、およそ200名の新採用職員が参加しました。参加人数の多さに驚くとともに、様々な職種の方々の活躍により医療が成り立っていることを改めて実感しました。

講義では、国立病院機構の役割・運営に関する基礎的な知識や、社会人として必要な接遇マナー、チー

ム医療のなかでの事務職員の役割等を学びました。3日間という短い期間でしたが、事務職員としてどのように医療に貢献できるかを考える非常に有意義な機会となりました。

高知病院の契約係として3ヶ月目となり、少しずつ業務にも慣れてきたものの、まだまだわからないことも多く患者さんや職員の方々にご迷惑をおかけすることもあります。今回の研修を通じて学んだことを活かし、高知病院に必要な職員となれるよう精一杯頑張りたいと思います。

感染管理室だより

—専門看護研修公開講座 (感染管理コース)について—



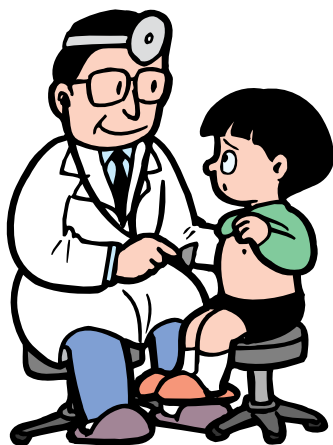
感染管理認定看護師 原 昭恵

看護部では、平成23年度から認定看護師による「専門看護研修」を開催しています。平成24年度からは院外の施設の方にも参加していただいています。

私が担当する専門コースは「感染管理」分野です。感染管理とは、患者さん、職員、院内すべての人を対象に病院における感染症を予防し、また、感染が発生した際には拡大を最小限に抑えるための対策を実行していくことです。研修の目的は「医療関連感染の予防・管理に必要な専門的知識を習得し、エビデンスに基づいて感染管理活動を実践・指導できる能力を育成する」で、部署内などで役割モデルとなり指導的立場を担うことが期待される方を対象としています。内容は、感染管理の基本、医療処置などに関連する感染防止、職業感染防止など全6回コースとなっています。

安全な医療の提供において感染対策は重要であり、より適切な対策が必要とされています。根拠が理解でき、施設や部署に即した効果的な対策の実践につながるよう、参加者の課題なども考慮した内容にしたいと思います。

他の分野として「がん性疼痛看護」「緩和ケア」「がん化学療法」のコースがあります。



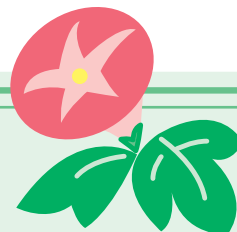
職員の異動

採用

泌尿器科医師 亀井 麻依子 7月1日付

退職

看護師	有光 澄子	5月2日付
看護師	川田 未記	5月17日付
泌尿器科医師	久野 貴平	6月30日付
看護師	濱田 文恵	6月30日付



医療安全管理室だより

一健康フェスタを終え、病院間医療相互
チェックを目前に控えて一

医療安全管理係長 山本 三恵

当院で平成24年に報告されたインシデントの第3位を占めていたのは転倒転落に関する内容でした。インシデントの原因として、認知症、病状変化やベッド上での安静に伴う下肢の筋力低下が多くあげられていました。これを受け、医療安全管理室では、患者さんの入院中の安全を守ることを目的の一環として、6月1日に開催された健康フェスタで、高齢者が安全に生活を送るために、下肢筋力の向上と高齢者の身体的特徴を知っていただくための催しとして「健康体操」「老人体験」を行いました。健康体操では25人と老人体験では34人の参加がありました。

老人体験では、錘を3～5kg背負った階段昇降。ベッドに横になった状態から、錘を背負ったまま起き上がる時の不便さと動きづらさを体験していただきました。「結構重いね」「これぐらい大丈夫」と意見は様々でした。視野が狭窄し、手袋やサポーターを手につけることで、手の感覚が鈍く、指の動きが制限されることから、「こんなに大変なんやね」「動きづらいね」等の感想もいただきました。折りしも6月1日は、三浦雄一郎さんが最高齢でエベレスト登頂したばかりの時期だったので、「三浦さんはこんなんでも登ったんやね」「三浦さんも毎日数十キロの錘を背負って身体を鍛えてるんよね」という意見が多く聞かれました。また、老人体験の参加者で感じたことは、年齢が高い人は足腰がしっかりしていたように思います。それに引き換え若い人は階

段昇降時に足元がふらつく場面があり、年齢が高い人のほうが自分の健康に注意して、毎日歩いたり、運動をしたりと身体を鍛えられているのでは？と感じました。

このほか、国立病院機構では医療安全を強化するために、平成24年度から「病院間医療安全相互チェック」に取り組んでおります。今年度は中国・四国の国立病院機構で6施設を対象とし、当院も四国グループのメンバーになりました。方法としては、各病院における医療安全に関する取り組みができているか。良い取り組みや、できていない取り組みなどを他施設の職員が評価に訪れ、意見や指導を行います。取り組みが不十分、もしくは、できていないと指摘された内容は、改善に向けて対処することで各病院の医療安全の質を向上させようとするものです。いろんな病院の医療安全対策（特に転倒転落予防対策）を見学し、参考になることは取り入れていこうと思っております。今後とも、医療安全活動にご協力をお願いいたします。



地域医療連携室だより

地域医療連携室主任医療相談員 看護師長 秋森 容子



梅雨明けの暑さひとしおのがあります。

地域医療連携室は6月から新しく事務職員が増員され、紹介患者さんの受付（0番窓口）に配置されました。これにより地域の施設から紹介頂く患者さんの事前予約から受付、診療への流れがよりスムーズになりました。加えてこの受付は、がん相談やセカンドオピニオンの受付も兼ねております。患者さんにきめ細かな対応ができるよう努めていきたいと思ひます。

また、電子カルテ導入後は、紹介患者さんの外来診察時間の予約やMRI、CT、骨シンチ等の画像検査の予約を地域医療連携室で出来るシステムになりました。緊急性のない場合は、紹介患者さんのスムーズな受け入れや外来での待ち時間の短縮のためご活用いただくようご案内しています。



健康フェスタ2013では、地域医療連携室は市民公開講座を担当しました。「子どもとつながる〇〇科」というテーマで耳鼻咽喉科 近藤医師、皮膚科 三好医師、呼吸器外科 日野医師、外科 大塚医師、婦人科 滝川医師、小児科 武市医師がそれぞれの専門分野から子どもにかかわる病気や治療、発達障害の子どもを育てる（伸ばす）かわり方など興味深い話をしてくれました。また、患者さんの北川美智代さんとボランティアで参加くださったNHKアナウンサーの鈴木遥さんの朗読も暖かい雰囲気とても心に沁みました。今回から場所を地域医療研修センターから1F外来前のフロアに移しましたが、来院いただいた方に気軽に寄って聞いていただくことができて良かったと思ひます。



今年も地域医療連携連絡会の季節がやってきました。

「地域に親しまれ、信頼される医療機関」を目指し、更なる病・病連携、病診連携の充実を図るために毎年企画している本会も第5回を迎えました。皆様ご多忙とは存じますが、是非ご出席をお願いします。

日時 8月3日(土)18:30~20:30

場所 高知商工会館 3階「寿の間」(連絡会) 4階「光の間」(意見交換会)

会費 3000円

一手作りリーフレットのご紹介一

国立病院機構高知病院と連携している医療機関です

国もりもと会
もりもと整形外科・内科
院長 森本哲郎先生

診療上の特色
診療科：整形外科 スポーツ整形外科
リハビリテーション科 内科
スポーツリハビリテーション

外来診療時間
午前 9:00~12:30
午後 15:00~19:00 (土曜は14:00~16:00)
休診日 日曜、水曜、祝日

アクセス
高知市朝倉本町2-12-16
高知大学の南側 朝倉小学校前
TEL 098-843-5342 FAX 098-843-5370
ホームページ <http://morimotoseikei.jp/>

医療は、患者さんと私たち医療従事者のチームプレーです。もりもと整形外科・内科は「医療こそチームプレーが重要である」と考えています。医師・理学療法士・看護師・医療事務員がひとつのチームとなり、多角的な方面から医療(治療・予防)をおこなっています。

私達は、医療に携わる人間として情熱と誇りと博愛の心を持ち意欲ある医療活動を展開しています

昨年度より、当地域医療連携室では、連携施設のリーフレットを作成しております。地域医療連携室スタッフが、慣れないPCを駆使して作成した手作り感あふれるリーフレットです。その中から、一部ご紹介いたします。



リーフレットは外来に設置閲覧、広報誌に掲載、必要時患者さんに配布等させていただきます。地域医療連携室では、上記リーフレットにご賛同いただける施設を募集しております。下記連絡先までご一報下さい。

国立病院機構高知病院と連携している医療機関です

ひまわりクリニック
院長 山口結花先生

診療上の特色
喘息のお子さんが多いです。小児科専門医療機関ですが、おやりの患者さんは大人になっても受診しています。風邪がひどいなら、お母さんの影響をすることもあります。

外来診療時間
午前 9:00~12:30
午後 14:00~18:00
休診日 日曜、祝日、土曜午後

アクセス
高知市高島2丁目6-30
TEL 098-881-0723
FAX 098-881-0727
西からのアクセス：南高バイパス新高島橋渡って2個目の信号を左折(上北バス・イサヤの角)、すぐ右折200メートル先左側
土佐電鉄高知駅下車、南へ徒歩1分

話しやわいとお評判です。気楽に受診してみてください。

私達は、医療に携わる人間として情熱と誇りと博愛の心を持ち意欲ある医療活動を展開しています

地域医療機関の皆様へ

患者さんのご紹介・現在入院中の患者さんの問い合わせ・リーフレットについて 等…

088-828-4465

地域医療連携室までご一報下さい。 平日 8:30~18:00まで対応いたします。

看護学校だより

入学式

平成25年4月9日（火）、第51期生43名の入学式を行いました。

これから、NHO高知病院附属看護学校で学んでまいります。関係者の皆様のご指導を賜りますようお願いいたします。

第51期生誓いのことば

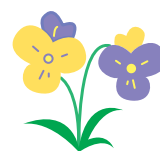
このたび、独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校第51期生として
入学を許可されました。

私達は看護学校の規則を守り、学業に誠実に励み、特性をみがき、
学生の本分に努力することをここに宣誓します。





の行事



第51期生 中村恭子 高橋美幸

私達第51期生は、入学してすぐに宿泊研修のため香北青少年の家に行きました。

1日目は、体育館でプチ運動会とバレーボール大会を行い、入学してからほとんど会話していなかった友達と交流し、仲良くなることができました。夕食は、班ごとに分かれて協力しながらカレーを作りました。班の中で役割分担し、皆で協力することでおいしいカレーができました。

2日目は、青少年の家のスタッフさんが用意してくれたジャンボかくれんぼや伝言ゲームなどをし、さらに交流を深めることができました。

この2日間の宿泊研修を通して、皆で協力することの大切さを改めて認識することができました。



4月末には、春野運動公園の体育館で新入生歓迎体育大会が行われました。1年生から3年生、そして先生、事務員の方が8グループに分かれ、午前はバレーボール、午後はしっぽとりをしました。2種目とも、学生だけでなく先生方も白熱し、全員で楽しむことができました。新入生体育大会では、2年生が中心となって企画、運営などをして下さいます。特に名前入りのワッペン、どのチームもレベルが高く驚きました。クラスメイトだけではなく、先輩や先生方と交流を深めるよい機会となりました。

5月には防災訓練があり、災害時などの救助の仕方、消火器の使い方を学びました。消火器の使い方の学習では、消防士さんに使い方を教わり、先輩方がお手本を見せてくれました。私達も実際に使用し消火活動を行いました。今回の訓練で学んだことを忘れず、実践できるようにしていきたいです。

4月、5月は、様々な行事がありました。その中で先輩方からいろいろなことを学びました。先輩方が私達にして下さったこと以上のことを、私達も後輩に伝えていきたいです。

今、私達は看護師になるための勉強を日々頑張っています。忙しい毎日ですが、皆で協力し合い、3年間頑張っていきたいと思っています。

外来診療担当医表

(平成25年7月1日現在)

■受付時間 8:30～11:00

整形外科 火曜日は予約患者のみの診察になります。
(新患、予約のない方は原則診察できません)

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日



独立行政法人
国立病院機構

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
http://www.hosp.go.jp/~kochihp

高知病院



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	1 診	⑫ 影本 開三	門田・岡野	香川・町田	中野・三井	畠山・香西
	特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来					
神経内科		⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
	2 診	⑥			町田 久典	篠原 勉
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00～15:30(予約制)	
消化器科	午前	⑨ 井上・板垣	三井 康裕	板垣 達三	井上 修志	三井 康裕
循環器科	午前	⑦ 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	1 診	① 小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	大石 尚文
	2 診	② 大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	井上 和男	高橋 芳夫
	3 診	③ 武市 知己				小倉由紀子
	午後 専門外来	神経・発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー・化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児検診
	予防接種	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)
外科	午前	⑤ 大塚 敏広	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	井川 浩一
	午後 専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	1 診	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原 一仁	林 二三男
	2 診	②			(田村 竜也)	
脳神経外科	1 診	⑧ 中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	非常勤 10:00～
	2 診					
呼吸器外科	午前	⑦	日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前	⑤				
皮膚科	午前	⑬ 三好 研	三好 研	三好 研	三好 研	三好 研
泌尿器科	午前	⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 亀井(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前	③⑤ 滝川 稚也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	
	午後					
婦人科	午前	③① 福家 義雄		小林 文子	滝川 稚也	当 番 医
眼科	午前	②⑧ 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑬ 近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野
	午後 専門外来		14:00～(予約制) 嚥下・睡眠時無呼吸外来			
リハビリテーション科						
放射線科		小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。
※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。